



しなやか先端技術企業集団

環境にやさしいテクノロジーで未来を創造

 **ワイエイシーホールディングス 株式会社**

東証1部 証券コード:6298

事業フィールド



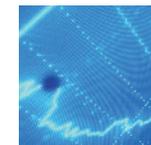
ハードディスク



精密熱処理



ディスプレイ



工業用計器・制御通信



半導体



精密切断



太陽電池



レーザープロセス



クリーニング



医療

第47期 中間 ビジネスレポート

平成30年4月1日～平成30年9月30日



代表取締役社長
百瀬 武文

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに『第47期中間ビジネスレポート』をお届けいたします。

当第2四半期の連結業績は、ディスプレイ関連及び半導体関連を中心とした旺盛な市場需要を取り込み、全体として前年同期比増収・増益となりました。引き続き営業活動並びにコストの削減に努め、通期の業績予想値を上回る結果を出すことが出来るよう、邁進してまいります。

また、当第2四半期の配当金は1株につき10円とさせていただきました。株主の皆様への利益還元を経営上の重要なテーマのひとつと位置づけ、業績や事業計画などを総合的に勘案し、安定的な配

当を継続することを基本方針としております。引き続き競争力の強化に努め、株主の皆様への利益の拡大に努めてまいります。

今後も既存事業における規模の拡大並びにM&A、アライアンスに積極的に取り組むとともに、「第4次産業革命」に関連した新商品の開発や、生産性の向上を目的とした「働き方改革」にも積極的に取り組み、更なる経営基盤の拡充を進めるとともに、より多く社会に貢献してまいります。

株主の皆様におかれましては、これからも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年12月

さあ今日も、
ときめきと感動の日々であれ！

創業理念

1. 技術集約会社
2. 旺盛なバイタリティー
3. リスクに果敢にチャレンジする
4. 少数精鋭主義

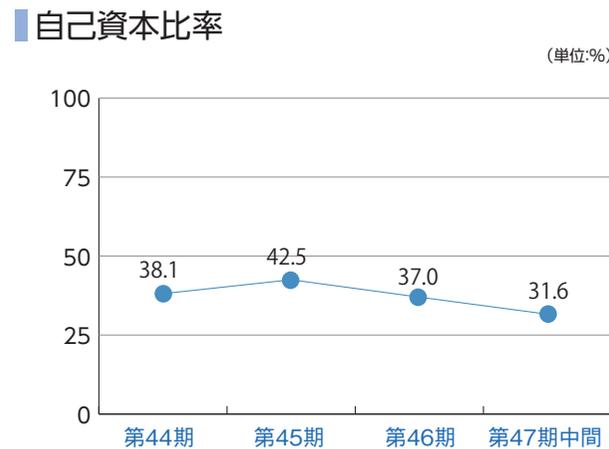
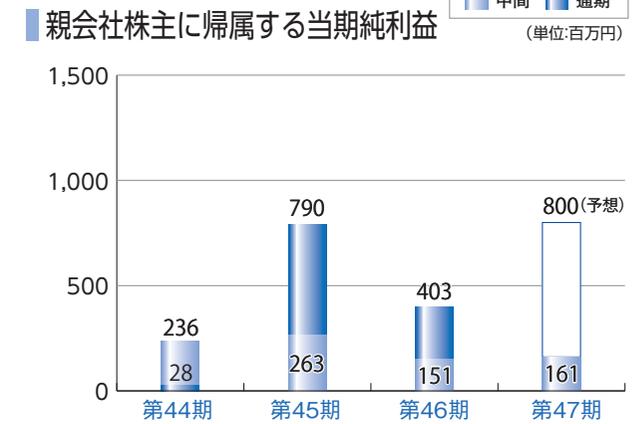
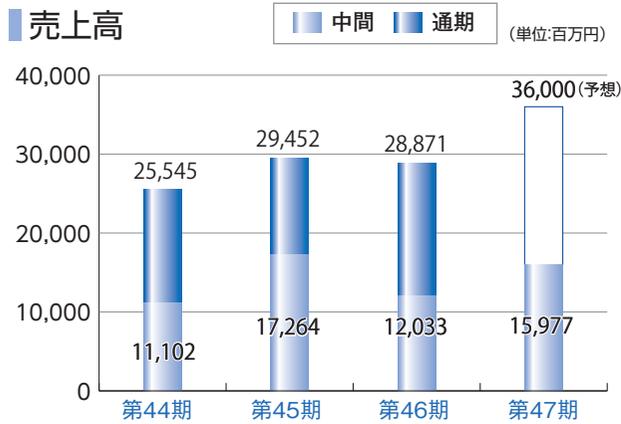
成長理念

1. 社員の豊かさを追求する（経済的、精神的）
2. 国・地方自治体により多く納税する
3. 新製品の創造・提供
4. 地域社会への貢献
5. 株主を優遇する
6. 環境保全のため省資源・省エネルギーを図る

究極の理念

- ～より多く社会に貢献するために～
1. 社員の成長
 2. 雇用の拡大
 3. 雇用条件の向上
 4. 納税額の拡大

	第44期	第45期	第46期	第47期中間	第47期通期(予想)
売上高	25,545百万円	29,452百万円	28,871百万円	15,977百万円	36,000百万円
営業利益	807百万円	1,036百万円	1,074百万円	326百万円	1,800百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	28百万円	790百万円	403百万円	161百万円	800百万円
1株当たり純資産額	1,482.87円	1,545.37円	1,578.33円	1,570.14円	—
自己資本比率	38.1%	42.5%	37.0%	31.6%	—
配当金	20円	20円	20円	10円	20円



事業概況

当第2四半期連結累計期間(平成30年4月1日から平成30年9月30日)における世界経済は、米国では雇用の改善や大型減税を背景に個人消費が順調に推移するなど、堅調な成長が続きました。欧州では個人消費が牽引し、緩やかな成長基調で推移しました。中国においてはインフラ投資に陰りが見られるものの、輸出や個人消費は堅調に推移しており、総じて緩やかな回復基調で推移しました。一方で、米中貿易摩擦による世界経済への影響の拡大が懸念されております。

日本経済においては、豪雨や大型台風により被害が発生したものの、東京五輪関連や訪日外国人の急増に伴う設備投資の活発化や、引き続き順調な雇用情勢を背景に、緩や

かな回復基調で推移しました。

このような経済状況のもとで、当社グループは、刻々と変化する顧客ニーズを捉えた装置の開発と市場化に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高159億77百万円(前年同期比32.8%増)、営業利益3億26百万円(同39.7%増)、経常利益4億28百万円(同38.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益1億61百万円(同6.7%増)となりました。

経営の現状と通期見通し

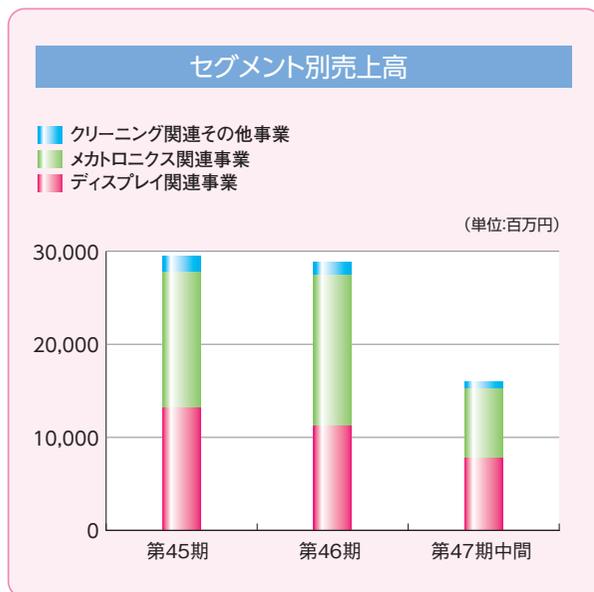
今後の見通しにつきましては、世界経済は北朝鮮や中東情勢等による先行き不透明感が広がっているものの、足元の景況感は着実な

改善傾向にあり、総じて緩やかな成長基調が続くものと思われま

す。このような事業環境のもと、当社グループにおきましては「規模の拡大」と「高収益体質の構築」の実現を目指してまいります。ここ数年のM&Aにより拡大した当社グループ会社間の更なる連携強化により、業績の拡大を図ってまいります。

通期の業績は、連結ベースで売上高360億円、(前期比24.7%増)、営業利益18億円(同68.4%増)、経常利益16億円(同67.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益8億円(同98.1%増)を予想しております。

セグメント別の状況



ディスプレイ関連事業

旺盛な市場需要を取り込み、売上は大幅増となりました。利益面では、価格競争の激化に加え、一部装置においてコストが増大し、収益を圧迫しました。

これらの結果、ディスプレイ関連事業の売上高は77億90百万円(前年同期比86.2%増)となり、セグメント損失は32百万円(前年同期はセグメント損失2億19百万円)となりました。

メカトロニクス関連事業

半導体関連の旺盛な需要を取り込み、業績は堅調に推移しました。

これらの結果、メカトロニクス関連事業の売上高は74億65百万円(前年同期比3.4%増)となり、セグメント利益は2億91百万円(同22.9%減)となりました。

クリーニング関連その他事業

クリーニング関連装置分野においては、国内のクリーニング需要の減少傾向が続く厳しい環境のなか、業績は横ばいで推移しました。

これらの結果、クリーニング関連その他事業の売上高は7億21百万円(前年同期比14.6%増)となり、セグメント損失は1億16百万円(前年同期はセグメント損失85百万円)となりました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 平成30年9月30日現在	前連結会計年度末 平成30年3月31日現在
【資産の部】		
1 流動資産	35,594	29,285
固定資産	9,173	8,980
有形固定資産	7,084	6,661
無形固定資産	617	706
投資その他の資産	1,471	1,612
資産合計	44,768	38,265
【負債の部】		
2 流動負債	22,397	15,623
固定負債	7,921	8,222
負債合計	30,318	23,846
【純資産の部】		
株主資本	14,387	14,270
その他の包括利益累計額	△235	△127
新株予約権	51	51
非支配株主持分	246	224
3 純資産合計	14,449	14,419
負債純資産合計	44,768	38,265

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間 自平成30年4月1日 至平成30年9月30日	前第2四半期累計期間 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日
売上高	15,977	12,033
売上原価	13,298	9,345
販売費及び一般管理費	2,352	2,454
営業利益	326	233
営業外収益	151	115
営業外費用	49	38
経常利益	428	310
特別利益	78	1
特別損失	0	71
税金等調整前四半期純利益	507	239
法人税等	312	98
四半期純利益	195	141
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	33	△10
親会社株主に帰属する四半期純利益	161	151

4 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間 自平成30年4月1日 至平成30年9月30日	前第2四半期累計期間 自平成29年4月1日 至平成29年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	109	2,245
投資活動によるキャッシュ・フロー	137	△376
財務活動によるキャッシュ・フロー	98	50
現金及び現金同等物に係る換算差額	49	12
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	394	1,932
現金及び現金同等物の期首残高	7,926	6,703
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△28
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,321	8,607

POINT 1 流動資産

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は355億94百万円となり、前連結会計年度末に比べ63億9百万円増加しました。主な増加要因は仕掛品47億23百万円、受取手形及び売掛金13億84百万円、原材料及び貯蔵品78百万円であります。

POINT 2 流動負債

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は223億97百万円となり、前連結会計年度末に比べ67億73百万円増加しました。主な増加要因は支払手形及び買掛金45億56百万円、前受金18億84百万円、短期借入金4億82百万円であります。

POINT 3 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産は144億49百万円となり、前連結会計年度末に比べ30百万円増加しました。その結果、自己資本比率は31.6%となり、1株当たり純資産は1,570円14銭となりました。

POINT 4 連結キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期累計期間における営業活動による資金は、1億9百万円の増加(前年同期は22億45百万円の増加)となりました。

これは主に

■プラス要因

- (1)「仕入債務の増加」45億80百万円
- (2)「前受金の増加」18億88百万円

■マイナス要因

「たな卸資産の増加」46億24百万円

の影響によるものです。

また、有価証券の償還による収入8億76百万円等により投資活動による資金で1億37百万円の増加、短期借入金の増加6億42百万円等により財務活動による資金で98百万円増加した結果、当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ3億94百万円増加し、83億21百万円となりました。

Topics1 人工透析装置増産に向け新工場が稼働

医療機器製造を手がけるワイエイシエレクトクス(株)の新工場(大阪府東大阪市)が竣工、稼働を開始しました。従来2か所あった工場の生産機能を順次移転、集約し、生産能力の増強を図ります。同時に、兵庫県伊丹市にあった本社機能も大阪府東大阪市に移転、経営の効率化も目指します。

ワイエイシエレクトクス(株)は人工透析装置が製品売上の7割を占めており、大手医療機器メーカーにOEM供給を行っております。主に中南米・インド等の新興国向けの需要が伸びており、生産力を増強して対応します。



Topics2 クリーニング事業にて中国国営企業とのプロジェクト始動

某中国国営企業との提携により、今後計画されているリネン工場の建設計画に参加し、新工場に当社のリネン向け(クリーニング関連)装置を導入するプロジェクトが始動しました。

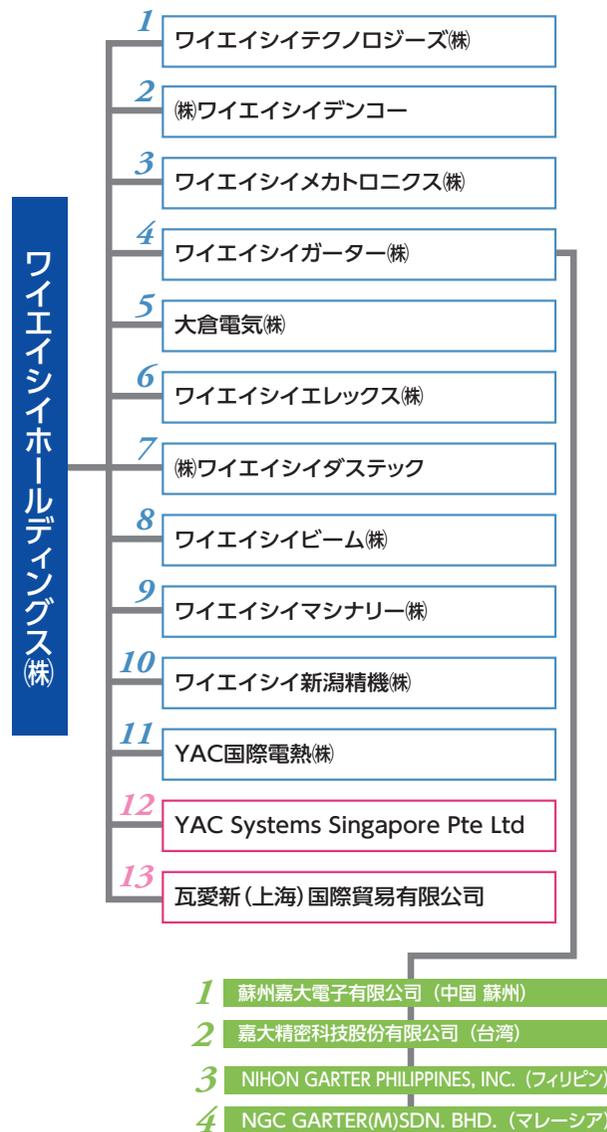
中国では、環境基準が従来より厳しくなる法令が2019年6月に施行されることになっております。これに伴い、旧式の人力による機械から自動化への置き換えが進む中で、信頼性の高い日本製のクリーニング関連装置の需要が高まっております。

今回のプロジェクトにおいては、来年までに中国国内に33工場の新規建設が計画されており、更に5年後まで計画は続く見込みです。

取引会社	事業内容	プロジェクトにおける役割
某国営企業	医薬品製造販売のほか、病院経営を手掛ける。	経営する病院向けリネン装置一式を導入する。発注先は上海柔龍社。
上海柔龍社	医療用リネン連続洗濯機製造、医療用リネン工場レイアウト設計等。	取引会社からの受注を受け、自社にて連続洗濯機を製造するとともに、その他の必要な装置をワイエイシイ上海に発注する。
ワイエイシイ上海現地法人	当社装置(クリーニング関連、ディスプレイ関連等)の中国国内における販売。	上海柔龍社からの発注を受け、折畳機、平面包装機、トンネルフィニッシャーを製造する。

ワイエイシイグループの構成

ワイエイシイホールディングス傘下 全17社
 国内グループ会社 11社
 海外グループ会社 2社
 海外孫会社 4社



会社概要

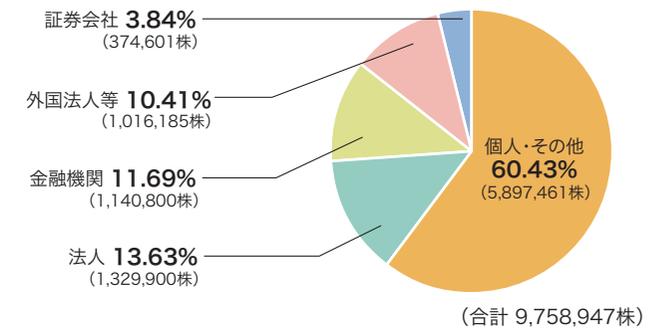
商号	ワイエイシーホールディングス株式会社
英文表示	Y.A.C. HOLDINGS CO., LTD.
本社	東京都昭島市武蔵野三丁目11番10号
設立	昭和48年5月11日
資本金	2,801百万円
従業員数	22名 (連結835名) (出向社員・契約社員等の臨時雇用者含まず)

株式の状況

会社が発行する株式の総数		34,388,000株
発行済株式の総数		9,758,947株
当期末現在の株主数		5,543名
個人・その他※	5,375名	5,897,461株
法人	44名	1,329,900株
金融機関	23名	1,140,800株
証券会社	39名	374,601株
外国法人等	62名	1,016,185株

※自己株式を含みます。

所有株式数分布状況



役員・執行役員 (平成30年10月1日現在)

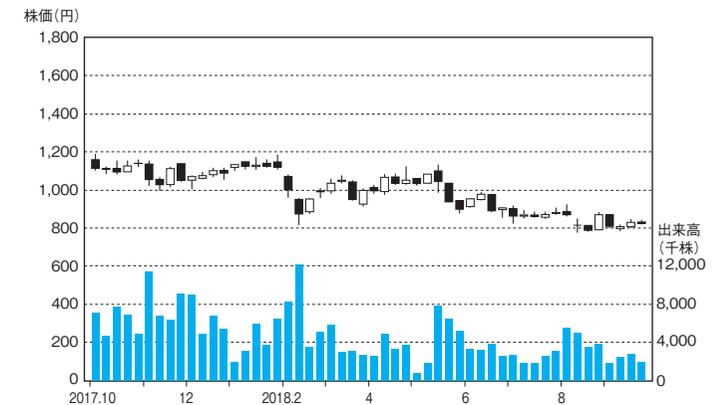
代表取締役社長	百瀬 武文
取締役常務執行役員	副島 幸雄
取締役常務執行役員	寺本 和政
取締役	伊藤 利彦
取締役	大福 芳弘
取締役	福田 辰徳
取締役	大倉 章裕
取締役	久保 進
取締役	石田 祥二 ※社外取締役
取締役	木船 常康 ※社外取締役
常勤監査役	辻 慎司
監査役	高田 直規 ※社外監査役
監査役	飯田 哲郎 ※社外監査役
執行役員	坂本 克幸

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社モモタケ	1,220	12.50
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/ACCT BP2S DUBLIN CLIENTS-AIFM	316	3.23
百瀬 武文	299	3.07
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	180	1.85
野村信託銀行株式会社(投信口)	164	1.68
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNY GCM CLIENT ACCOUNTS M LSCB RD	141	1.44
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	128	1.31
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	121	1.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口2)	114	1.17
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	109	1.12

※当社は、自己株式を745,845株保有しておりますが、大株主からは除外しております。

株価・株式売買高の推移(週足)



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日	同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
期末配当金受領株主確定日	3月31日		郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
中間配当金受領株主確定日	9月30日		
定時株主総会	毎年6月		
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社	上場証券取引所	東京証券取引所
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社	公告の方法	電子公告により行います 公告掲載URL http://www.yac.co.jp/ (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご紹介

株主・個人投資家の方々に対しての
当社の状況をわかりやすく伝えたコンテンツを
提供しております。

<http://www.yac.co.jp/>

または、

で検索ください。

ワイエイシイホールディングス 株式会社

〒196-0021 東京都昭島市武蔵野3-11-10
TEL:(042)546-1161(代表) FAX:(042)546-1107
URL <http://www.yac.co.jp>